

FY2023

# 不二製油グループ本社 2023年度決算説明会資料

1. 2023年度 実績
2. 2024年度 業績予想
3. 中期経営計画の進捗と企業価値向上への取り組み
4. 参考資料

1

# 2023年度 実績

## 2023年度 通期実績

(単位：億円)

	FY2022 通期実績	FY2023 通期実績	前期比	FY2023 修正予想 (24年2月)	修正予想比
売上高	5,574	<b>5,641</b>	+67	5,500	+141
営業利益	109	<b>182</b>	+73	165	+17
経常利益	97	<b>168</b>	+71	150	+18
親会社株主に帰属する 当期純利益	61	<b>65</b>	+4	65	+0

**売上高 5,641億円 前期比 +67億円**

植物性油脂事業での主原料であるパーム油等の原材料価格の安定に伴う販売価格の低下やフジオイルニューオリンズ（以下「FVN」）の固定資産譲渡による売上高の減少はあったものの、業務用チョコレート事業でのカカオ等の原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や、為替円安等により増収。

**営業利益 182億円 前期比 +73億円**

業務用チョコレート事業での米国における菓子市場の需要停滞に伴う販売数量減少や固定費の増加があったものの、植物性油脂事業での日本、米州、欧州の原材料価格の安定に伴う採算性の改善を主要因に増益。

**当期純利益 65億円 前期比 +4億円**

業務用チョコレート事業でのブラマーに係る特別損失が発生するも、植物性油脂事業を中心に収益性の改善が進んだことに加え、植物性油脂事業でのFVNの固定資産譲渡に伴う特別利益により増益。

## 2023年度 通期実績／事業別

(単位：億円)

	FY2022 通期実績	FY2023 通期実績	前期比	FY2023 業績予想 (24年2月)	修正予想比
売上高	5,574	<b>5,641</b>	+67	5,500	+141
植物性油脂事業	2,034	<b>1,854</b>	▲181	1,802	+52
業務用チョコレート事業	2,285	<b>2,534</b>	+249	2,464	+70
乳化・発酵素材事業	912	<b>899</b>	▲13	878	+21
大豆加工素材事業	343	<b>355</b>	+12	356	▲1
営業利益	109	<b>182</b>	+73	165	+17
植物性油脂事業	70	<b>154</b>	+84	144	+10
業務用チョコレート事業	50	<b>18</b>	▲31	17	+1
乳化・発酵素材事業	15	<b>38</b>	+23	33	+5
大豆加工素材事業	13	<b>10</b>	▲2	11	▲1
グループ管理費用等	▲38	<b>▲39</b>	▲1	▲41	+2
営業利益率	2.0%	<b>3.2%</b>	+1.3pt	3.0%	+0.2pt

## 事業別 営業利益

 植物性油脂

- ・日本・米州・欧州では、原材料価格の安定に伴い採算性が改善。
- ・FVNの固定資産譲渡による前期(営業損失)からの改善。

 業務用チョコレート

- ・日本では、土産・冷蔵・コンビニエンスストア向けの販売が好調に推移。
- ・ブラジル・東南アジア・欧州では、増産設備が寄与し販売数量が増加。
- ・米国では、菓子市場の需要低迷に伴う販売数量の減少やカカオ等の原材料価格の高騰、金利上昇に伴い運転資本や関連費用が増加。

 乳化・発酵素材

- ・日本では、外食やコンビニエンスストア向けにクリーム等の販売が伸長。
- ・東南アジアや中国では、原材料価格の安定に伴い採算性が改善。

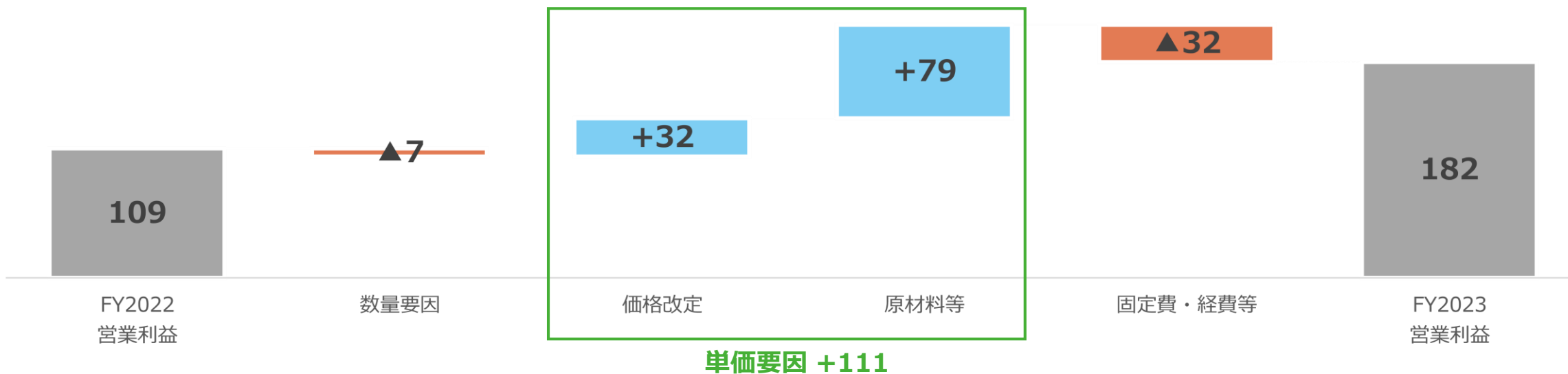
 大豆加工素材

- ・日本では、販売価格の適正化により採算性が改善。
- ・欧州新工場の稼働により減価償却費が増加。

## 2023年度 通期営業利益増減分析

## 前期比 営業利益増減分析

(単位：億円)



## 数量要因

業務用チョコレート事業のブラジルや、乳化・発酵素材事業の日本におけるクリーム等の販売が伸長するも、業務用チョコレート事業のブラマーでの販売数量が減少。

## 単価要因

カカオ価格の高騰や日本における為替円安の影響はある一方、主原料であるパーム油価格の安定により増益に寄与。

## 固定費・経費等

植物性油脂事業のFVNの固定資産譲渡による固定費の減少はあるものの、グループ各社で人件費等が増加。

# 2

## 2024年度 業績予想

## 2024年度 通期業績予想

(単位：億円)

	FY2023 通期実績	FY2024 予想	前期比
売上高	5,641	<b>6,000</b>	+359
植物性油脂事業	1,854	<b>1,874</b>	+20
業務用チョコレート事業	2,534	<b>2,805</b>	+271
乳化・発酵素材事業	899	<b>950</b>	+51
大豆加工素材事業	355	<b>371</b>	+16
営業利益	182	<b>200</b>	+18
植物性油脂事業	154	<b>123</b>	▲31
業務用チョコレート事業	18	<b>74</b>	+56
乳化・発酵素材事業	38	<b>35</b>	▲3
大豆加工素材事業	10	<b>14</b>	+3
グループ管理費用等	▲39	▲46	▲7
営業利益率	3.2%	<b>3.3%</b>	+0.1pt
経常利益	168	<b>160</b>	▲8
親会社株主に帰属する当期純利益	65	<b>100</b>	+35

**売上高 6,000億円 前期比 +359億円**

ブラマーのシカゴ工場閉鎖による販売数量の減少はある一方で、カカオ等の原材料価格上昇や固定費増加に対応した販売価格の適正化を推進。また、乳化・発酵素材事業の拡販などにより増収を計画。

**営業利益 200億円 前期比 +18億円**

植物性油脂事業で原材料価格安定に伴う販売価格の適正化により減益を見込むものの、業務用チョコレート事業のブラマーでの改善を主要因に増益を計画。

**当期純利益 100億円 前期比 +35億円**

前年度の一過性要因の反動に加え、営業利益伸長により増益を計画。

※ブラマー決算期変更

2024年度より、ブラマーの決算期を3月末に変更します。

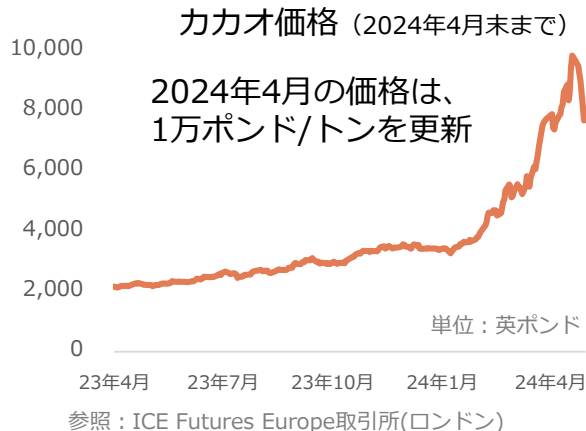
従来は、ブラマーの2月から翌年1月の損益計算書を連結しておりましたが、2024年度からは、ブラマーの4月から翌年3月の損益計算書を連結します。



# 2024年度 重点項目

## カカオ価格の高騰

カカオ市況は、西アフリカでの天候不順やカカオの病害により、23/24クロープの収穫量の減少、供給不足により、2024年初めより急激に上昇。



## ブラマー

2024年3月に、2028年までの5ヶ年の構造改革を発表

構造改革のポイント

- 1 シカゴ工場の閉鎖
- 2 カカオ加工事業の適正化
- 3 差別化戦略の推進

## リスクと機会

リスク	カカオ豆、カカオ加工品の不足
	チョコレート需要の減少
	コストアップ
	運転資金の増加
機会	チョコレート用油脂の需要増加
	顧客での新製品や製品改良の機運向上

## 対応

安定供給に向けた原料確保実施
幅広い価格帯の製品を拡充し顧客ニーズに応える
販売価格の適正化
グループ全体の資金管理強化
増産体制の構築及び拡販
チョコレート用油脂を活用した製品などを提案

## 2024年度の主な取り組み

- ✓シカゴ工場は、3月末に生産終了し、5月末閉鎖予定。従業員への説明や他工場への生産移管も計画どおりに進捗。シカゴ工場閉鎖によるコスト削減により、**前期比で30百万ドルの改善を見込む。**
- ✓カカオ豆在庫の圧縮によるエクスポージャーの低減。
- ✓既存3工場の工場生産性改善による生産数量の増加。

## 2024年度業績予想

売上高 **1,874** 億円 (前期比 +20 億円) 営業利益 **123** 億円 (前期比 ▲31 億円)

2023年度は、海外グループ会社における一過性需要の獲得や販売価格改定を行う中でパーム油価格が低位安定したことで収益性が向上。2024年度はその反動を見込み減益を計画。カカオ価格高騰に対応したチョコレート用油脂の販売強化に加え、サステナビリティや品質に対する顧客ニーズへの対応を進め、高い利益水準を維持。

## 2024年度のポイント

## カカオ価格高騰により高まるチョコレート用油脂の需要に応える

パーム油やひまわり油、シアバターを主要原料としたチョコレート用油脂（カカオバターの代替油脂）の需要拡大が見込まれる。顧客ニーズに対応し、増産に向けた体制構築及び拡販を進める。

## サステナブル調達・安定供給・品質コントロールによる差別化

トレーサブルで環境・人権に配慮したサステナブル調達に加え、油脂中に含まれる微量成分をコントロールした製品のニーズが欧州を中心に増加。強みである調達力と精製技術を活かした製品を安定して供給することにより2024年度も継続した需要獲得を目指す。

東南アジア

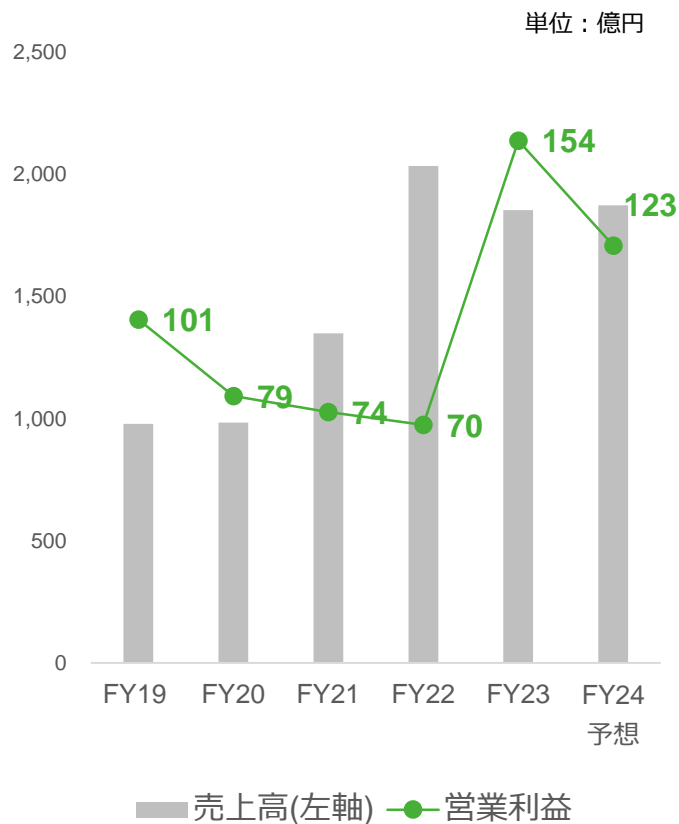
強固なサプライチェーンを構築し、高品質なパーム油を安定調達



欧州

サステナブルなパーム油を高度加工し、顧客に販売

植物性油脂事業  
売上高・営業利益



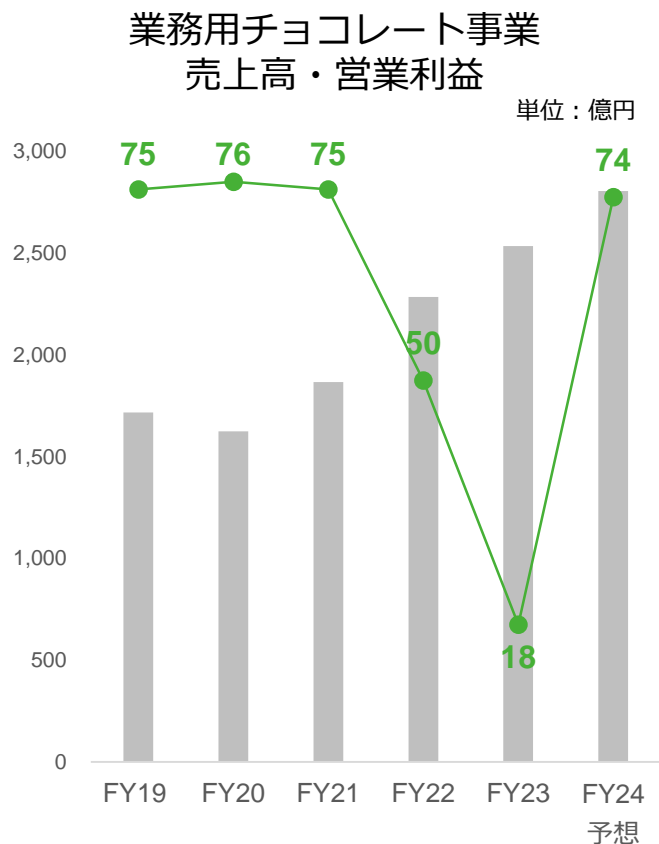
FY2019実績は海外子会社15ヶ月決算のため、3ヶ月分の損益を調整して表示。

# 業務用チョコレート事業

## 2024年度業績予想

売上高 **2,805** 億円 (前期比 +271 億円) 営業利益 **74** 億円 (前期比 +56 億円)

ブラマーではシカゴ工場閉鎖による固定費削減や生産体制の再編を実施。カカオ価格の高騰や金利等の関連コストの上昇分も含め販売価格の適正化を行い、強みであるコンパウンドチョコレートの販売を強化し、増益を計画。



### 2024年度のポイント

#### ブラマー構造改革の実行

シカゴ工場閉鎖に伴う他工場への生産移管を含め、安定した供給体制構築を着実に進める。

#### カカオ価格高騰への対応

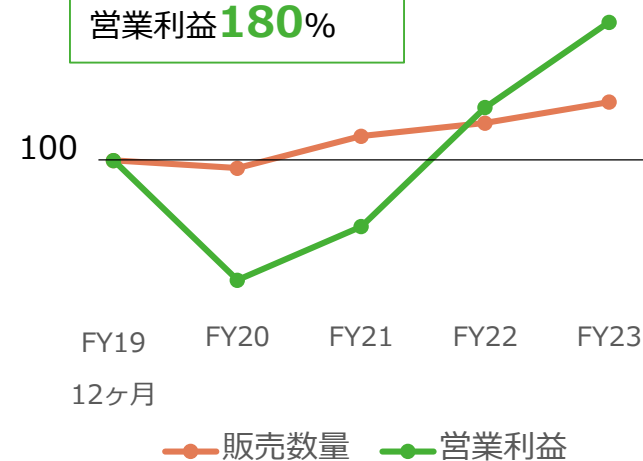
グループ全体での安定供給の確保、販売価格の適正化を進め、また、強みであるコンパウンドチョコレートの販売を強化。

#### ブラジル・東南アジア・欧州での成長

2023年度は、ブラジル・東南アジア・欧州などでの設備投資の寄与により販売数量伸長、利益改善を実現。2024年度は、地域の特性に合わせた販売、製品戦略を継続し拡販を進める。

業務用チョコレート事業  
(ブラジル・東南アジア・欧州)  
販売数量・営業利益 FY2019=100%

FY2023 (FY2019比)  
販売数量 **134%**  
営業利益 **180%**



FY2019実績は海外子会社15ヶ月決算のため、3ヶ月分の損益を調整して表示。

# 乳化・発酵素材事業 / 大豆加工素材事業



## 乳化・発酵素材事業

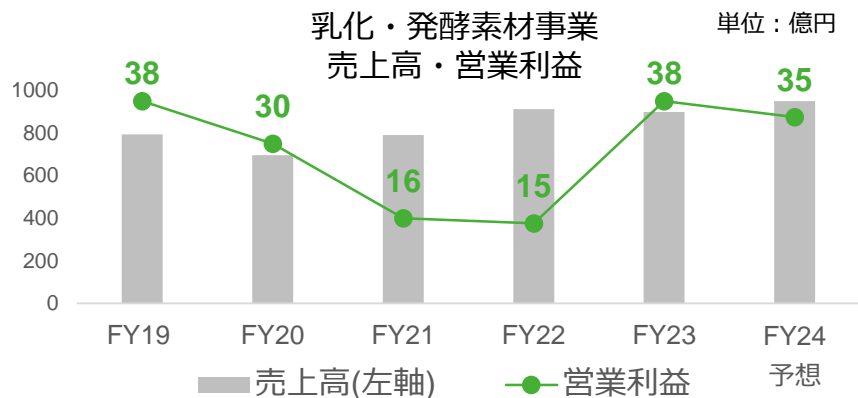
2024年度業績予想 売上高 **950** 億円 (前期比 **+51** 億円)  
 営業利益 **35** 億円 (前期比 **▲3** 億円)

2023年度堅調だった日本の反動により減益を見込むものの、東南アジアや中国では、クリームや製パン素材の販売体制を強化し、収益性の改善を見込む。

### 2024年度 のポイント

## クリームの展開強化

日本では、顧客ニーズを捉えた差別化製品の提案により2023年度はクリーム等の販売が伸長。2024年度は、日本での施策継続に加え、中国・東南アジアでも日本の品質・技術をベースにしたクリームの展開を強化する。



## 大豆加工素材事業

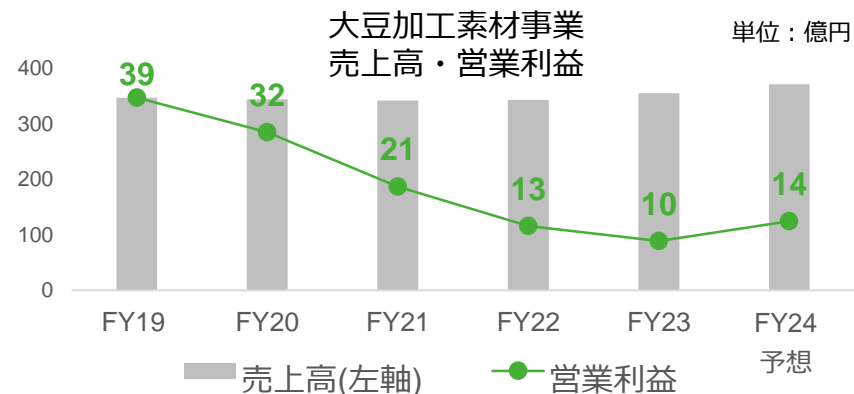
2024年度業績予想 売上高 **371** 億円 (前期比 **+16** 億円)  
 営業利益 **14** 億円 (前期比 **+3** 億円)

販売価格の適正化を継続。差別化製品の拡販及び不採算製品の対策を強化し、高付加価値製品比率の向上を進める。

### 2024年度 のポイント

## 差別化製品の拡販と工場再編の推進

日本での製品ポートフォリオの入替を推進。大豆たん白素材では、変化する顧客ニーズに対応した差別化製品の販売を強化。大豆たん白食品では、工場の再編を進める。



FY2019実績は海外子会社15ヶ月決算のため、3ヶ月分の損益を調整して表示。

2021年度から大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品を、乳化・発酵素材事業に振り替えたことから、遡及修正後の値を表示。

## B/S・C/F・配当方針

## B/S

## ・2023年度期末

資産は、FVN固定資産譲渡による固定資産減少はあるものの、為替円安の影響等により現預金及び棚卸資産が増加。運転資本の削減やFVN固定資産譲渡により有利子負債の削減を進め、ネットD/Eレシオは大きく改善。

## ・2024年度予想

財務体質の改善に引き続き取り組むものの、原材料相場等の状況を注視しつつ、柔軟な対応を進める。

単位：億円

	FY2022期末	FY2023期末	FY2024予想
現預金等	190	275	150
のれん	272	218	—
<b>資産合計</b>	<b>4,688</b>	<b>4,702</b>	<b>4,700</b>
有利子負債	1,684	1,303	1,385
<b>負債合計</b>	<b>2,578</b>	<b>2,259</b>	<b>2,300</b>
<b>純資産合計</b>	<b>2,110</b>	<b>2,443</b>	<b>2,400</b>

## C/F

## ・2023年度実績

営業CF 運転資本の削減や営業利益の増加を主要因として大幅増加。

投資CF FVN固定資産譲渡による収入により大幅増加。

財務CF 運転資本の削減や借入金の返済等により減少。

単位：億円

	FY2022実績	FY2023実績	FY2024予想
営業CF	76	482	310
投資CF	▲165	88	▲300
FCF	▲89	570	10
財務CF	98	▲500	▲145

## その他財務指標

	FY2022実績	FY2023実績	FY2024予想
ROE	3.1%	3.0%	4.4%
ROIC	2.0%	3.5%	3.8%
CCC	104日	102日	97日
設備投資額	215億円	151億円	—

## 配当方針

FY2023 52円／年間を予定。（期初計画どおり）

FY2024予想 52円／年間を予定。

# 3

## 中期経営計画の進捗と 企業価値向上への取り組み





# 中期経営計画 Reborn 2024の進捗

中期経営計画のもと、事業基盤の強化による着実な業績改善を実現。次期中期経営計画での飛躍を目指す。

## 1. 事業基盤の強化

ブラマーなど一部の事業で収益回復に遅れはあるものの、事業別の成長投資や収益向上策などにより着実に事業基盤強化が進展。

財務項目	2024年度目標 (策定当初)	2024年度 予想	2023年度 実績	2022年度 実績
営業利益	235億円	<b>200</b> 億円	182億円	109億円
ROE	8.0%	<b>4.4%</b>	3.0%	3.1%
FUJI ROIC	5.0%	<b>3.7%</b>	3.5%	2.0%

	成長投資	収益向上	資産入替
	JPG Fuji*の設立 (FY26.4月稼働予定)	認証油など高付加 価値製品の販売	FVNの固定資産譲渡 (FY23.4月)
	ブラジル新工場稼働 (FY23.4月稼働)	油脂技術を活用した 差別化製品の拡大	ブラマーシカゴ工場 閉鎖 (24.5月末予定)
	中国クリーム工場稼働 (FY23.8月稼働)	新発酵技術の導入に よる新製品発売	—
	欧州多糖類工場稼働 (FY23.4月稼働)	高付加価値製品の 拡販	中国大豆たん白食品 工場譲渡実施 (FY22)

## 2. グローバル経営管理の強化

グループ各社の強み弱みを可視化するため、FUJI ROICや工場生産性指標を導入。事業軸マネジメントでの管理強化が進展。

## 3. サステナビリティの深化

中期経営計画に掲げた2024年度目標は超過達成見込み。人材育成の強化を最優先に進める。

2023年度は、ブラマーの経営課題が顕在化し、その対処が必要になったが、**植物性油脂事業は過去最高益を記録、日本やブラジルも伸長する等、事業基盤強化の成果が実現。** 2024年度は、更なる収益性の改善と基盤強化を進め、次期中期経営計画で飛躍的な成長を目指す。

\* JPG Fuji Sdn Bhd: 認証パーム油やプレミアム品質製品の製造・販売を行う合併会社

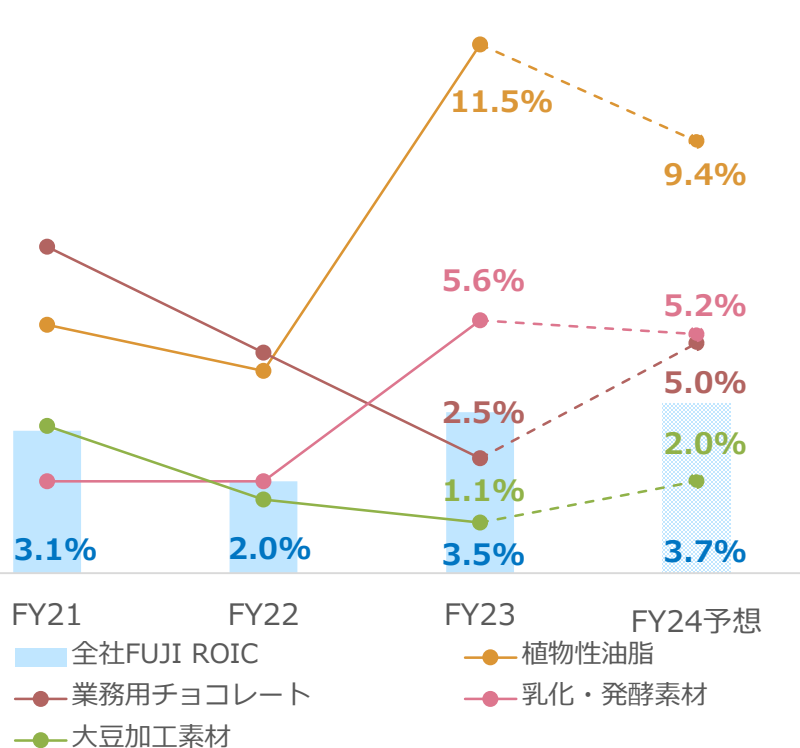
# FUJI ROICによる資産効率の向上

事業別FUJI ROICにより事業別の課題解決を加速させ、収益性の向上及び資産の効率化を実現。

$$\text{FUJI ROIC} = \frac{\text{税引後営業利益}}{\text{運転資本} + \text{固定資産}}$$

FUJI ROICは、各事業で把握・管理可能な項目とすべく、分母となる投下資本を運転資本と固定資産に置き換えた指標。FUJI ROICの改善により企業価値の向上を目指す。

全社連結・事業別FUJI ROIC



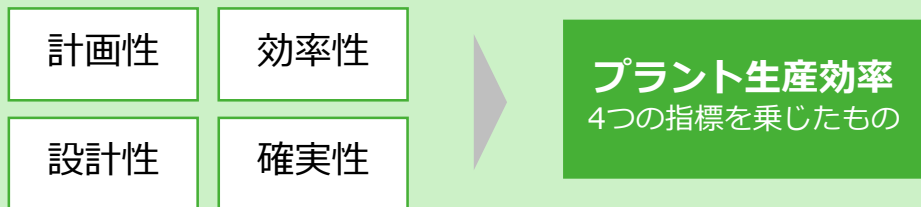
事業	施策とこれまでの評価	今後の方向性
植物性油脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>原料購買及び販売価格の適正化</li> <li>FVN固定資産の譲渡</li> <li>認証パーム油等拡販</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チョコレート用油脂の拡販</li> <li>認証パーム油やプレミアム品質製品の拡販</li> </ul>
業務用チョコレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備投資による販売数量拡大</li> <li>ブラマー構造改革を発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラマー構造改革の実行</li> <li>カカオ価格高騰への対応</li> </ul>
乳化・発酵素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の競争力、収益力の向上</li> <li>中国、東南アジアの課題対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国での拡販</li> <li>東南アジアの現地向け拡販</li> </ul>
大豆加工素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本での収益性改善の遅れ</li> <li>欧州新工場での拡販遅れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオの見直し加速</li> <li>植物性食素材の拡販</li> </ul>
全社	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部門でのKPIの浸透</li> <li>CCC及び営業CFの改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転資本の削減継続</li> <li>ポートフォリオの見直し</li> </ul>



# 工場生産性指標の導入

## 工場生産性指標により、グループ各社の効率性を可視化。

### 工場生産性指標

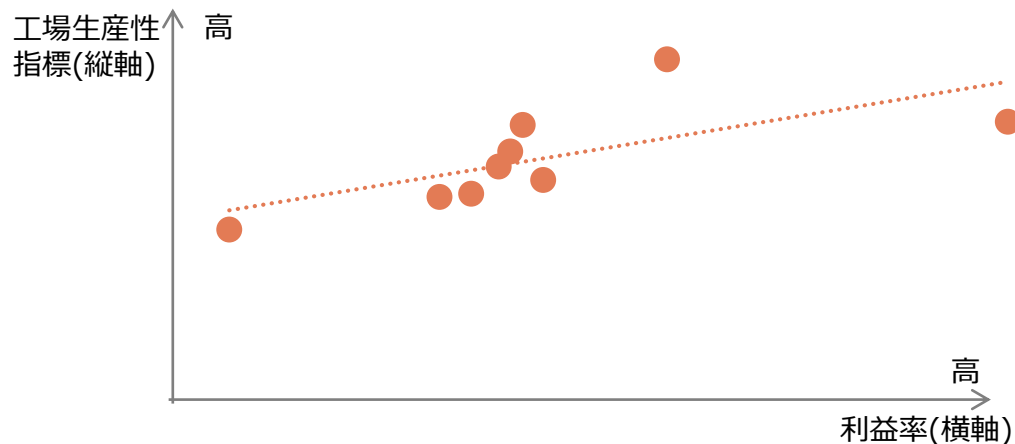


各工場の強み、弱みを明らかにし、同事業のグループ各社を比較可能にするため、グループ共通の工場生産性指標を2022年度に導入し、2023年度より運用。海外グループ会社の生産現場の強化を図ることに加え、適切な経営資源配分の推進に有用。

### 工場生産性指標と収益性

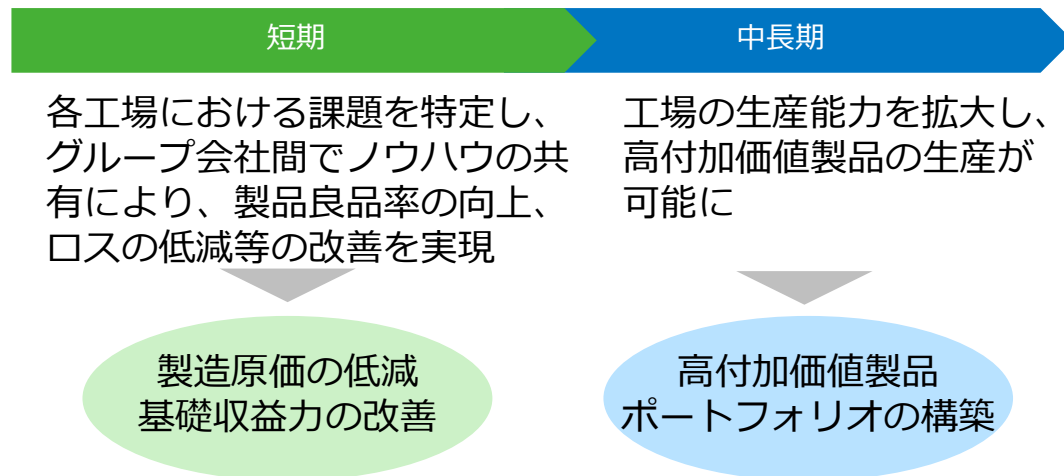
工場生産性と収益性には一定の相関を確認。

業務用チョコレート事業の  
主要会社の工場生産性と利益率の関係



### 期待する効果

海外グループ会社における工場生産性の向上により、短期的にはコスト低減と収益力の改善、長期的には高付加価値製品ポートフォリオの構築を目指す。



# 中長期の成長に向けて

## ビジョン実現に向けた中長期の取り組みを推進。

### 不二製油グループ ビジョン

植物性素材でおいしさと健康を追求し、  
サステナブルな食の未来を共創します。

### ビジョン実現に向けた取り組み

#### 挑戦領域

サステナブルな食の未来に向け新たな価値を生み出し、高成長・高収益を果たす。なかでも、植物性に特化したGOODNOON活動を通じて、技術創出・挑戦する風土醸成・新たな事業サイクルを確立する。

#### GOODNOON活動での実績



老舗蕎麦 総本家更科堀井様での植物性ダシの採用



イメージ

コンビニエンスストアでの植物性ダシの採用



ECサイト  
cotta tomorrow

#### 中長期視点での研究開発

当社未来創造研究所では、将来起こりうる社会課題を把握し、中長期視点での課題解決に向けた研究開発を実施。

#### 研究テーマ領域

- ・ 高齢化社会のウェルビーイングの実現
- ・ 健康に貢献する素材開発（安定化DHA/EPA&ペプチド）
- ・ サステナブルな食資源（パーム油・カカオの代替食素材）
- ・ 環境に配慮した食の供給技術（油脂酵母・大豆植物工場）

## CEO酒井より

- ・ 2024年度に向けて
- ・ 次期中期経営計画に向けて
- ・ 成長に向けた取り組み

# 4

## 参考資料

## 2023年度 第4四半期 3ヶ月実績

(単位：億円)

	FY2022Q4 3ヶ月実績	FY2023Q4 3ヶ月実績	前年同期比
売上高	1,407	<b>1,425</b>	+18
植物性油脂事業	498	<b>457</b>	▲41
業務用チョコレート事業	611	<b>667</b>	+56
乳化・発酵素材事業	214	<b>220</b>	+6
大豆加工素材事業	85	<b>83</b>	▲3
営業利益	22	<b>53</b>	+32
植物性油脂事業	18	<b>37</b>	+19
業務用チョコレート事業	9	<b>21</b>	+12
乳化・発酵素材事業	6	<b>8</b>	+2
大豆加工素材事業	▲1	<b>▲2</b>	▲2
グループ管理費用等	▲10	<b>▲10</b>	▲1
営業利益率	1.5%	<b>3.7%</b>	+2.2pt
経常利益	13	<b>52</b>	+38
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11	<b>16</b>	+5

**売上高 1,425億円 前年同期比 +18億円**

FVNの固定資産譲渡による売上高の減少があったものの、業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安により増収。

**営業利益 53億円 前年同期比 +32億円**

植物性油脂事業の米州、東南アジアでの採算性の改善や業務用チョコレート事業の米国での一過性費用の減少、ブラジルでの販売数量の増加により増益。



植物性油脂

米州、東南アジアでの採算性の改善及び、FVNの固定資産譲渡による前年同期(営業損失)からの改善により増益。



業務用  
チョコレート

米国での販売数量の減少は継続する一方で、米国での一過性費用の減少やブラジルでの販売数量の増加により増益。



乳化・  
発酵素材

日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、中国での採算性の改善により増益。



大豆加工  
素材

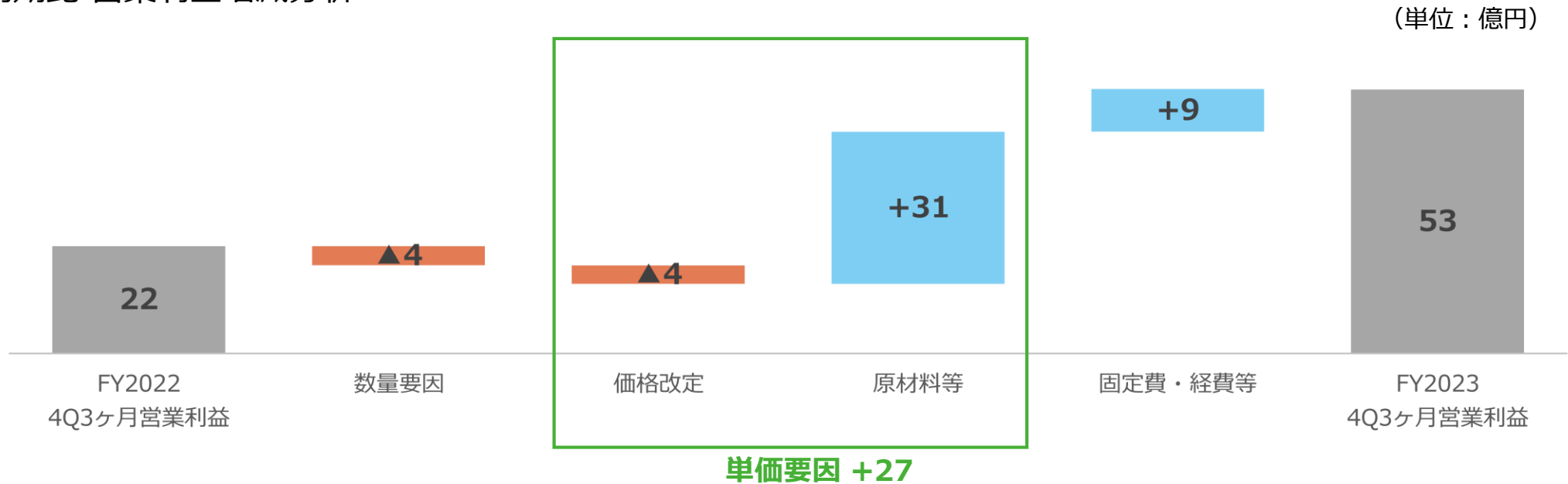
欧州新工場の減価償却費の増加により減益。

**四半期純利益 16億円 前年同期比 +5億円**

業務用チョコレート事業のブラマーのシカゴ工場閉鎖に伴う費用が発生した一方、営業利益の増加により四半期純利益は増益。

## 2023年度 第4四半期 営業利益増減分析

## 前年同期比 営業利益増減分析



## 数量要因

業務用チョコレート事業のブラジルではイースター向けの販売が好調、乳化・発酵素材事業では日本のクリームの販売が伸長するも、業務用チョコレート事業のブラマーでの販売数量が減少。

## 単価要因

カカオ価格の高騰や日本における為替円安の影響はある一方、主原料であるパーム油価格の安定により増益に寄与。

## 固定費・経費等

グループ各社で人件費等が増加したものの、前年同期のブラマーシカゴ工場の設備トラブルに関連した費用からの反動により減少。

## 通期：売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

(単位：百万円)

売上高	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2024 予想	59,000	+1,987	60,900	▲2,114	26,000	▲485	3,600	+281	37,900	+2,380	187,400	+2,049
	2023 実績	57,012	+579	63,014	▲16,203	26,485	▲4,372	3,318	▲56	35,519	+1,954	185,350	▲18,097
	2022 実績	56,432	-	79,217	-	30,858	-	3,374	-	33,564	-	203,448	-
業務用 チョコレート	2024 予想	49,400	+3,093	185,000	+14,824	26,600	+7,025	9,400	+1,523	10,100	+624	280,500	+27,091
	2023 実績	46,306	+4,057	170,175	+16,851	19,574	+1,406	7,876	+409	9,475	+2,171	253,408	+24,895
	2022 実績	42,248	-	153,324	-	18,168	-	7,467	-	7,304	-	228,513	-
乳化・発酵素材	2024 予想	59,700	+682	-	-	14,900	+460	20,400	+4,001	-	-	95,000	+5,144
	2023 実績	59,017	+1,319	-	-	14,439	▲1,632	16,398	▲997	-	-	89,855	▲1,309
	2022 実績	57,697	-	-	-	16,071	-	17,395	-	-	-	91,164	-
大豆加工素材	2024 予想	36,000	+1,298	-	-	-	-	900	+129	200	+200	37,100	+1,627
	2023 実績	34,701	+1,452	-	-	-	-	770	▲265	0	+0	35,472	+1,188
	2022 実績	33,248	-	-	-	-	-	1,035	-	-	-	34,284	-
売上高計	2024 予想	204,100	+7,062	245,900	+12,709	67,500	+7,000	34,300	+5,936	48,200	+3,204	600,000	+35,912
	2023 実績	197,037	+7,409	233,190	+648	60,499	▲4,598	28,363	▲909	44,995	+4,126	564,087	+6,676
	2022 実績	189,627	-	232,542	-	65,097	-	29,273	-	40,869	-	557,410	-

営業利益	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2024 予想	4,907	▲919	2,824	▲1,482	2,526	+377	▲3	▲8	2,021	▲1,060	27	▲46	-	-	12,302	▲3,138
	2023 実績	5,825	+1,875	4,306	+5,244	2,148	▲811	4	+192	3,081	+1,698	73	+218	-	-	15,439	+8,418
	2022 実績	3,950	-	▲938	-	2,959	-	▲187	-	1,383	-	▲145	-	-	-	7,021	-
業務用 チョコレート	2024 予想	5,355	▲906	144	+6,808	1,512	+210	17	▲204	370	▲307	27	▲17	-	-	7,426	+5,585
	2023 実績	6,261	+632	▲6,664	▲4,639	1,301	+419	221	+182	676	+301	44	▲29	-	-	1,840	▲3,132
	2022 実績	5,629	-	▲2,025	-	882	-	38	-	375	-	73	-	-	-	4,973	-
乳化・発酵素材	2024 予想	2,808	▲723	-	-	30	+337	658	+84	-	-	32	+37	-	-	3,528	▲266
	2023 実績	3,531	+1,368	-	-	▲306	+125	574	+760	-	-	▲5	+49	-	-	3,793	+2,302
	2022 実績	2,163	-	-	-	▲432	-	▲185	-	-	-	▲54	-	-	-	1,490	-
大豆加工素材	2024 予想	1,612	+56	-	-	-	-	386	+110	▲676	+209	38	▲56	-	-	1,359	+319
	2023 実績	1,555	+209	-	-	-	-	275	▲9	▲884	▲508	94	+71	-	-	1,040	▲237
	2022 実績	1,346	-	-	-	-	-	284	-	▲376	-	22	-	-	-	1,277	-
連結調整	2024 予想	-	▲127	-	+13	-	▲22	-	+6	-	▲57	-	+177	-	-	-	▲10
	2023 実績	127	▲30	▲13	▲5	22	+75	▲6	▲23	57	+190	▲177	▲166	-	-	10	+40
	2022 実績	158	-	▲8	-	▲52	-	16	-	▲133	-	▲10	-	-	-	▲30	-
グループ 管理費用	2024 予想	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,615	▲704	▲4,615	▲704
	2023 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,910	▲118	▲3,910	▲118
	2022 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,792	-	▲3,792	-
営業利益計	2024 予想	14,681	▲2,620	2,968	+5,339	4,068	+901	1,059	▲10	1,715	▲1,215	124	+95	▲4,615	▲704	20,000	+1,787
	2023 実績	17,301	+4,053	▲2,371	+600	3,166	▲190	1,069	+1,102	2,930	+1,682	28	+143	▲3,910	▲118	18,213	+7,273
	2022 実績	13,247	-	▲2,972	-	3,356	-	▲33	-	1,248	-	▲114	-	▲3,792	-	10,940	-

## 中期経営計画 進捗

財務項目	2024年度目標 (策定当初)	2024年度 予想	2023年度 実績	2022年度 実績
営業利益	235億円	200億円	182億円	109億円
ROE	8.0%	4.4%	3.0%	3.1%
FUJI ROIC	5.0%	3.7%	3.5%	2.0%
株主還元	配当性向 30~40%	44.8%	68.6%	73.0%

非財務項目	2024年度目標 (策定当初)	2023年度 実績*1	2022年度 実績
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (スコープ1+2)*2	総量 23%削減	達成見込み	26%削減
サステナブル調達 (パーム油)	TTP*3比率 85%	達成見込み	93%

\*1 非財務項目の2023年度実績は、2024年9月に発行する統合報告書・サステナビリティレポートにて公表予定

\*2 基準年：2016年・全連結子会社

\*3 TTP：Traceability to Plantation 農園までのトレーサビリティ



## 日本エリア

## 2023年度実績

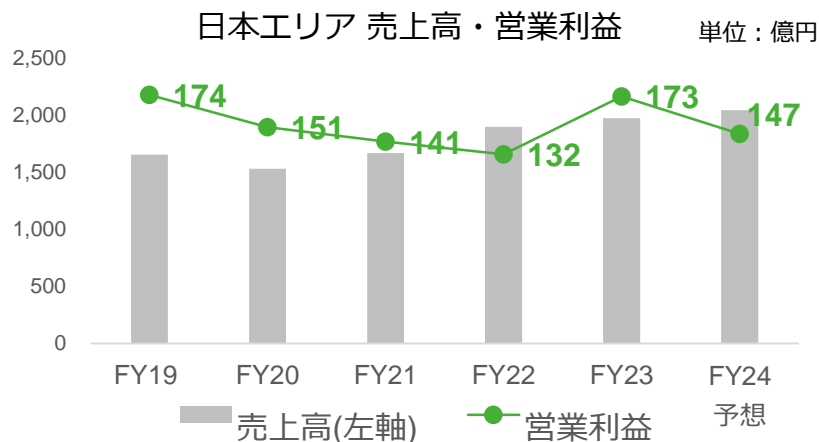
売上高 **1,970** 億円 (前期比 **+74** 億円)  
営業利益 **173** 億円 (前期比 **+41** 億円)

為替円安やカカオ価格の高騰により原材料価格が上昇、人件費等の固定費が増加する一方、継続的な価格改定や乳化・発酵素材事業のクリーム等の販売数量増加により増益。

## 2024年度予想

売上高 **2,041** 億円 (前期比 **+71** 億円)  
営業利益 **147** 億円 (前期比 **▲26** 億円)

植物性油脂事業での原材料価格の安定的な推移に伴う販売価格の適正化や業務用チョコレート事業のカカオ価格高騰の影響により減益を計画。



## 日本エリアでの主な取り組み

## カカオ価格高騰への対応

## 植物性油脂

カカオバター代替となるチョコレート用油脂のニーズに応える為、拡販を実施。

## 業務用チョコレート

コンパウンドチョコレートの強みを活かし、価格改定だけでなくコストダウン品等の提案を実施。

## 乳化・発酵素材での新発酵技術

クリームの伸長に加え、豆乳クリームバター等差別化製品の展開により、ここ数年で製品ポートフォリオの入替が進む。本格熟成チーズ風味を再現できる独自の乳酸菌発酵技術を構築し、新たなチーズ風味素材を2024年度に上市予定。



## 風味基材事業部の新設

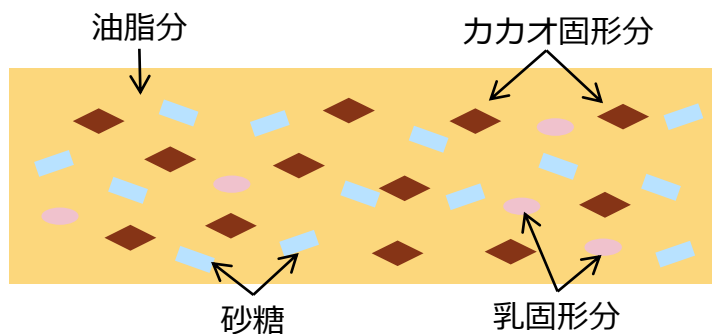
植物性素材で動物性食品特有の満足感を実現する技術ブランドMIRACORE®の事業展開のスピードアップを図るため、風味基材事業部を新設。



2024年4月公開  
MIRACORE®ブランドサイト

# チョコレート用油脂・コンパウンドチョコレート

## チョコレートの構成



分類

ピュア  
チョコレート

カカオマス ココアパウダー
------------------

+

砂糖 乳製品 その他
------------------

+

油脂分

カカオバター
--------

コンパウンド  
チョコレート

カカオマス ココアパウダー
------------------

+

砂糖 乳製品 その他
------------------

+

カカオ バター
------------

チョコレート 用油脂
---------------

## チョコレート用油脂

パーム油やひまわり油、シアバターなどカカオバター以外の植物油脂を原料とする油脂。油脂の組み合わせにより、カカオバターと同等の性質を持つだけでなくさまざまな機能性の付与が可能。不二製油グループでは、植物性油脂事業で取り扱う製品。

## コンパウンドチョコレート

チョコレート用油脂を使用したチョコレート。不二製油グループでは、業務用チョコレート事業で取り扱う製品で、チョコレート用油脂の使い分けや配合の調整により、バラエティに富んだ製品ラインナップを持つ。

使用例



チョコレート

製菓・製パン用  
コーティング

アイスコーティング



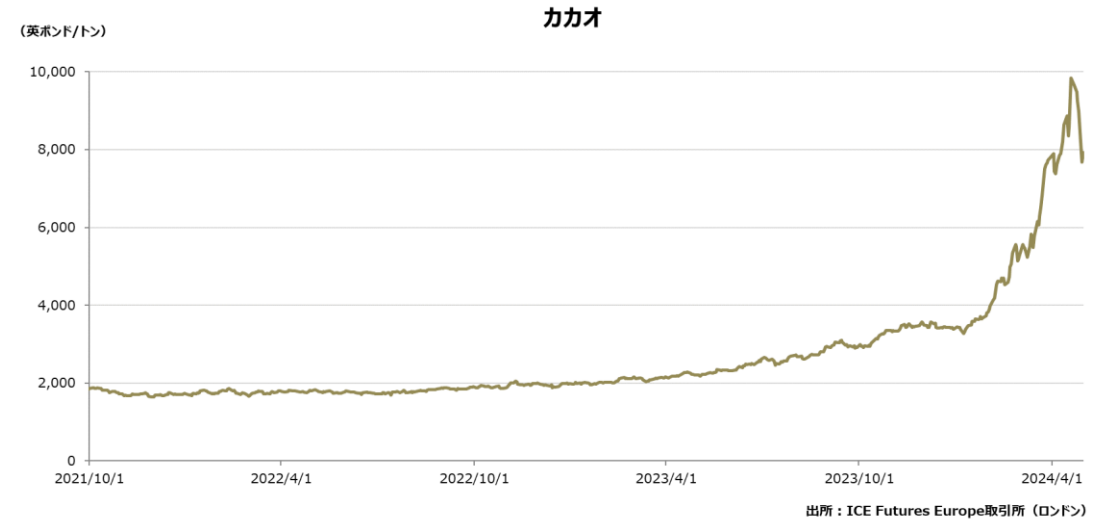
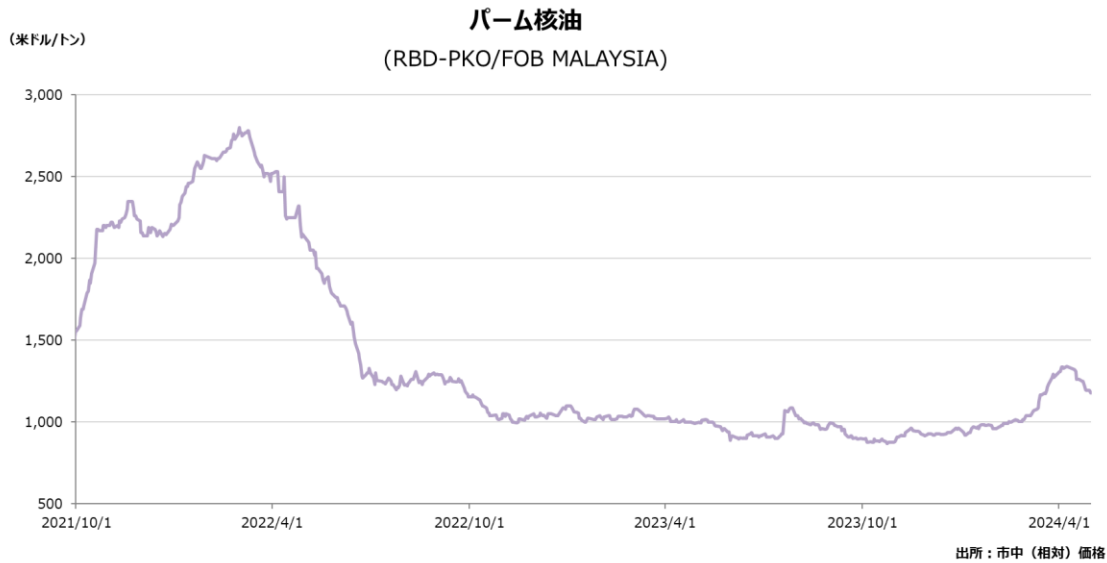
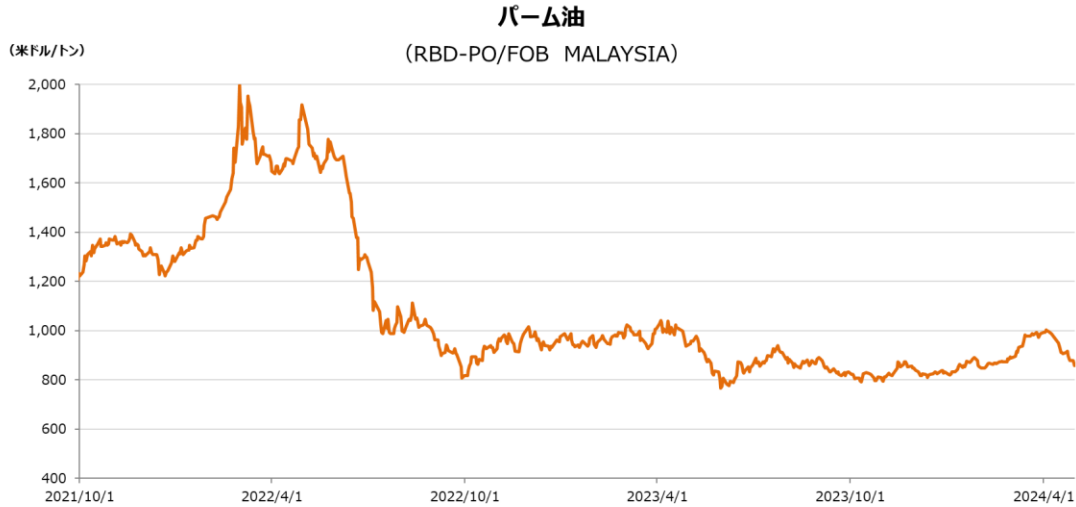
フィリング

チョコレート  
用油脂の特徴カカオバターと  
同等の性質テンパリング\*不要  
べたつきにくいテンパリング\*不要  
冷たい温度でも  
くちどけがよいソフトな物性で機械  
や手作業で絞ること  
ができる

\* テンパリング：チョコレートを固化する時に行う温度調節作業。カカオバターの安定な結晶を作るために行う。



# 主要原料推移 (～2024年4月末)



# 不二製油グループ本社株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。